

神宮と伊勢のまちを伝える

O I S E S A N N E W S

倭姫宮ご鎮座百周年[令和5年] 第2号

記念号

2

●企画・発行 伊勢文化舎
●発行日 令和5年10月1日
●発行部数 5万部
●協力 神宮司庁
神社本庁
倭姫宮御杖代奉賛会

お伊勢さんニュース

伊勢文化舎 / 〒516-0008 三重県伊勢市船江 2-22-25 TEL 0596-23-5166 FAX 0596-23-5241 E-mail otayori@isebito.com



今年ご鎮座 100 周年を迎える倭姫宮 撮影 阪本博文 (写真家・伊勢市在住)

倭姫宮のご鎮座百周年を祝う

中世から連綿と続く「倭姫信仰」。社殿の創建は人々の長い宿願でした。大正十二年十一月五日、神宮の十四番目の別宮として実を結びました。

次世代に伝えることは

久しぶりに、表参道から倭姫宮にお参りしました。一礼して鳥居を潜ると、参道は緩やかな、やや曲がった坂道が続きます。百年前、ここ倉田山の丘陵がご鎮座の地と定められ、山を切り通し、両側には自然石を組み、参道をつけました。神域には多様な樹木が植えられたと聞きます。百年が経ち、杜からは木漏れ日が差し込んでいました。光と影のトンネルを歩くこと五、六分、広い踊り場のような所に着き、この先は石段を登ります。数えながら登っていくと、四十五段ありました。登りきると、倭姫宮の社殿が目に見え込んできます。回りを囲むように樹木が生い茂り、上を仰ぐと楕円形の青空が浮かんでいました。手水を取り、参拝。帰りは社務所横の参道を通って戻りました。

元神宮神職で、倭姫宮に奉仕していた歌人の谷分道長さんにこんな歌があります。参道の木立の紅葉色づきて 木洩日ゆるる森の明るさ

歌集『豊栄の森』

近年は表参道からお参りする人は少なくなりませんが、ときにはこちらからの参拝をお薦めします。

目次

- 2面 人々の熱意が国を動かす
- 3面 倭姫命の面影(後編)
- 4面 ご鎮座一〇〇周年 奉祝行事、盛大に
- 5面 倉田山を歩こう
- 6面 倭姫宮周辺の「文化の森」を散策 (伊勢志摩エリア)
- 7面 瀧原宮の創祀について
- 8面 伊勢志摩のまつり暦・ご案内

人々の熱意が 国を動かす

文／文筆家 千種清美

倭姫宮創建（大正十二年）と御杖代奉賛会

倭姫宮という新しいお宮の創建は、どのようにして実現できたのか。明治、大正と神宮、市民らの粘り強い熱意が国を動かす。

今から百年前。大正十二年十一月五日は澄み渡る青空の広がる快晴であったという。伊勢神宮で最も新しい別宮である倭姫宮は、ご鎮座の日を迎えた。ご鎮座の祭儀は、夜のとりが降りた倭姫宮の宮域で行われた。夜七時、祭儀の始まりを告げる太鼓が打ち鳴らさ

れる。参道には、久邇神宮祭主、三条西大宮司、熊谷少宮司をはじめとする伊勢神宮の神職、内務大臣代理の内務次官、神社局長代理など政府関係者、そして地元からは三重県知事、宇治山田市市長が見守っていた。新しい別宮の創建という異例の大事業を成し遂げ、それぞれの胸にこみ上

倭姫命を 祭祀する宮を

伊勢神宮の始まりに貢献した皇女、倭姫命を祀る宮を創建するにあたっては、長い年月がかかっている。

明治十九年、倭姫命を祭祀する宮の創建について公に声を上げたのは、神苑会創設の主旨の中であった。「倭姫命の神霊をまつる神殿を苑内に建てるべき」と述べたのである。すると、翌年には伊勢神宮の鹿島宮司は神宮別宮として、齋宮寮の旧蹟（明和町齋宮）に建てることを政府に申請する。これを受けて国は実地調査を行うが、実現には至らなかった。その後、伊勢



平成26年、倭姫宮のご遷宮、奉幣の儀。天皇陛下お供えの幣帛が奉られた。

神宮の碩学、御巫清直による倭姫命の御墓をめぐる考証や、冷泉神宮大宮司による政府への請願などが行われた。倭姫宮の創建に具体的な動きが始まったのは大正時代に入ってからだ。明治から大正へ、御杖代が代わる中で、地元の宇治山田市市長が国に倭姫命を祀る官幣



木々の葉が揺れる倭姫宮の参道

有志に移り、創建への動きが活発化していく。ここには、地元の太田小三郎ら経済人の活躍があったと思われる。帝国議会では、貴族院、衆議院の両院で請願に続いて、建議書も満場一致で採択された。ここでも、地元の政治家、尾崎聖堂、浜田国松らの尽力が大きかったのだろう。

しかし、神社局長は内宮の摂社として倭姫命を奉祀するとするも、三戸戸神宮大宮司は、別宮として奉祀すべきと主張する。大正八年、その主張が認められ、別宮創建が決定するのである。

と、スギ、アラカシ、ヒノキ、クロマツなどさまざまな木々が大きく育っている。内宮や外宮の神域とはまた異なる雰囲気、明るい林に囲まれた参道は、倭姫命の懐に抱かれていような安心感が得られる。倭姫命を祀る社殿は、造神官使庁が担当。造宮の諸祭を行いながら、三年をかけて整えられた。

社（宮内省から幣帛を捧げられる神社）創立を請願したのである。そして、市民有志は福地市長を会長とする倭姫命奉祀期成会を組織。さらに、市長は帝国議会に請願するに至るのである。主体が神宮関係者から市民

有志に移り、創建への動きが活発化していく。ここには、地元の太田小三郎ら経済人の活躍があったと思われる。帝国議会では、貴族院、衆議院の両院で請願に続いて、建議書も満場一致で採択された。ここでも、地元の政治家、尾崎聖堂、浜田国松らの尽力が大きかったのだろう。

社殿は、内宮別宮の伊佐奈弥宮に準じられた。祭神が伊弉冉尊という女神であることから考えられる。萱葺屋根の神明造。屋根に載る鯉木は六本、千木は内削。瑞垣がぐるりと囲み、正面には瑞垣御門がある。祭典の時には、御門前で神饌を供え、祝詞が奏上される。春と秋の大祭には舞楽が晴れやかに奉じられる。参拝は、さらに巡らされた玉垣からなる。

明治13年(1880)、明治天皇の御聖断を仰ぎ、伊勢神宮の遥拝所として建てられたのが「東京皇大神宮遥拝殿」、いまの東京大神宮です。皇室の御祖神である天照大御神をまつり、国民の総氏神と仰がれる伊勢神宮(内宮)の御神徳を皇都東京にあまねく宣布し、都民の心のよりどころとなるようにとの願いから創建され、140年余の歳月が流れました。「東京のお伊勢さま」東京大神宮は、いまも伊勢神宮と都民の心を結んでおります。



東京のお伊勢さま



東京大神宮

〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-4-1
電話 (03) 3262-3566 FAX (03) 3261-4147
http://www.tokyodaijingu.or.jp/
JR総武線・地下鉄東西線・有楽町線・南北線・大江戸線「飯田橋駅」徒歩5分

崇敬者たちで奉賛講を結成

昭和二十四年、倭姫宮に大きな動きがあった。まだ終戦後の占領下にも関わらず、地元の人々が中心となり「御杖代講」が結成された。

その趣意書には、「倭姫命さまの御徳を仰ぎ、命さまを大御神さま信仰へのお導きの神さまとして、その御徳にあやかり、清く正しく楽しい神

仕へ生活をいとなみ、相携へて幸福な平和な社会を建設したい」と結成の目的を述べ、天照大神の御杖代として仕えた皇女にちなんで、講の名を付けたとある。この年は本来、第五十九回神宮式年遷宮が執り行われる予定であったが、昭和天皇のご意向により延期されている。一方



太田小三郎 (提供: 伊勢市)



尾崎喞堂 (提供: 伊勢市)

で、神宮の別宮でありながら、その当時は一般の人々が主体となって、崇敬団体を結成しているのである。

趣意書には、ご鎮座を偲び毎年十一月五日に盛大なる大祭を行う、毎月五日月次祭を行ない、講員の家内末代安住の祈願を行うなども定められ、これらは現在にも引き継がれている。

そして、昭和二十九年

十一月五日の初めての倭姫宮遷宮については、御杖代講として参加した記録が写真とともに残る。上棟祭、浜参宮、白石奉献、遷御奉拝、奉祝祭、講員たちの晴れがましい姿が



昭和29年の白石奉献に参加する人々



倭姫宮御杖代奉賛会のみなさん。前列左から4番目・牧戸福司会長

心の故郷、平和境伊勢に、いよいよ文化の花を咲かせ度い念願から」と結成の意義を高々と述べている。

倭姫宮ご鎮座からの百年は、伊勢の神宮の始まりに関わった倭姫命に寄せた人々の熱い思いを重ねた年月でもあった。これまでの百年を経て、私たちはこれからの百年の第一歩を踏み出したばかりである。

昭和五十二年八月、御杖代講は発展解散して、新たに倭姫宮御杖代奉賛会と改称、今に続いている。

趣意書には、「倭姫命の御神徳のもとに、平和国日本の

倭姫命の面影

後編

文／皇學館大学名誉教授 櫻井治男

神宮祭祀の守人

倭姫命は神宮における様々な「始まり」を定めたお方として仰がれてきた。天照大神の「太宮地」を五十鈴の川上と定められたことには始まり、「皇大神宮儀式帳」によれば、神宮経済にかかる神戸・神田の奉獻が巡行の途次において行われたこと、大神に近侍する童女・大物忌職の由来、供御の稲田の確定、祭祀における禁忌事項(忌詞)や祓の法の制定、神宮所縁の社(撰末社)を祝い定められたことが倭姫命によるとされている。天地開闢以来から語り始められる倭姫の一代記である『倭姫命世記』になると命の事跡はかなり豊かになり、物語性が強くなってくる。



尾部御陵のある倭町の森

る。本書は、外宮祠官の手になる鎌倉時代の述作とみなされているが、本来の古伝を残しているのか、既存の所伝に創作の営為がなされた作品と見るかは、読み手の立場や意識にもよる。「中世神話」として研究組上にも置かれるが、神話が始原の時空間における起源を繰り返し語る特徴を持つ点から考えれば、倭姫が「始まり」に関わる

重要な存在として登場することは不思議ではない。祭儀で御饗の水や堅塩を奉る起源、志摩国の御饗処の指定や「湯貴の潜女」(清浄な御饗所の海女)の制定なども含め、現実の神宮祭祀の典故が、倭姫の行為によるとの理由で、揺るぎない権威が保証されてきたのは間違いないだろう。この点では、祭祀伝統の内なる守人として重要な位置にあったと言える。

龍翁(明治五年〜昭和六三年)は、一七八一体の倭姫命像を制作した人物として知られるが、命への熱烈な敬仰の持ち主であった。倭姫の奉祀、すなわち社殿を構築する神として祀るという機運が地元

なされていた(與村弘正『神拝式類集』)。「倭姫社」「尾上社」なども表記されているので命を奉祀する社が、何時の頃から設けられていたのかがある。外宮の長官禰宜であった度会家行の『類聚神祇本源』(元応二年・一三三〇成)に所引の史料にも「尾上社」は登場している。倭姫命のその後は謎が多いが、隠れられたと云う「岩窟」が伊勢市内・倭町にある。またこの地域は「尾部山」「隱岡」との呼称を持ち、命を祀る「尾上社」があった。こ



倭姫宮表参道にある石標

影に尽力した御杖代講の発起人は六名の男性であった。その昔、天照大神を捧持する倭姫命に寄り添い偉業成就を支援した五大夫の面影を見るようである。

敬慕される倭姫命 倭姫命を描いた絵画や彫像がある。神宮徴古館に収まる矢沢弦月(明治一九年〜昭和二七年)の「皇大神宮奉祀」(昭和八年)では、正宮に向って庭上座礼で静かに両手を合わせる倭姫が、穏やかに麗しい様子で描かれている(本紙1号掲載)。また伊勢の彫刻家・板倉白

て東向きで「倭姫皇女」への拝が

うした由縁もあり、倭姫宮が、齋宮や離宮院の跡地ではなく、現地に創建されたこととつながっている。

(さくらい はるお) : 皇學館大学名誉教授。専門は宗教学、近代神道・神学。著者に「地域神社の宗教学」(知識ゼロからの神社入門)「日本人と神様」ゆるやかで強い絆の理由」など。日本宗教学会評議員・NPO法人社叢学会理事長。



伊勢名物 **赤福**
本店 〒516-0025 伊勢市宇治中之切町26番地
電話 0596-22-2154(代) ファクシ 0120-081-381
https://www.akafuku.co.jp

おかげ横丁 伊勢内宮前
おかげさまで 30周年
おかげ横丁 伊勢内宮前
おかげさまで 30周年



ご鎮座一〇〇周年、奉祝行事、盛大に

実行委員長・村田典子さんに聞く 聞き手・千種清美

十月四、五日に行われる奉祝行事はどのようなものなのか。奉祝行事への思い、見どころなどを倭姫宮ご鎮座三〇〇周年記念奉祝行事実行委員会の村田典子実行委員長に伺った。

——実行委員会はどのような会なのでしょう。

村田…一〇〇周年を奉祝する行事を企画実行するため、平成三十年九月、倭姫宮御杖代奉賛会を中心に立ち上げました。現在、神宮司庁、伊勢市、伊勢商工会議所、伊勢市観光協会、明和町など各種団体と市民有志二十五人ほどがメンバーとなっています。今年に入ってからは一〇〇周年を機に伊勢神宮の別宮、倭姫宮を広く知っていただきたいという思いを共有し、準備を進めています。

——奉祝行事について教えてください。

村田…倭姫命への奉讃、次世代の育成を念頭にさまざまに



村田典子実行委員長

仙右衛門氏は倭姫宮ご鎮座八〇周年では奉賛会会長をされています。親子二代で関わっておられるのです。



御幸道路沿いの「太田小三郎君紀功碑」

企画しました、四日の午前中は、内宮参集殿にて倭姫宮についての講演会とシンポジウムを行い、倭姫宮の創建や伊勢の神宮の始まりに関わった皇女、倭姫命についての理解を深めていただきたいと思えます。そして、四日の午後と、五日午前の例大祭の後は、倭姫宮近くの神宮徴古館前に特設舞台を設けて、倭姫命の奉讃曲や伝統の舞踊などの披露が行われます。メインの雅楽師・東儀秀樹さんをはじめ、伊勢市内外の団体に参加いただきます。それぞれの方たちは奉祝舞台に向けて練習を積み重ねていますので、見ごたえのある舞台になると思います。

——村田さんのお父上の村田仙右衛門氏は倭姫宮ご鎮座八〇周年では奉賛会会長をされています。親子二代で関わっておられるのです。

村田…じつは珍しく父からの依頼で、倭姫宮御杖代奉賛会に入りました。あの頃は私が一番若く、お歴々の中で気が引けましたが、倭姫宮との関わりを引き継いでほしいという父の気持ちが伝わってきましたので、引き受けました。

——経済人であるお父上が倭姫宮御杖代奉賛会の会長をなさっていたのはなぜでしょうか。

村田…倭姫宮のある倉田山の地は、明治時代に地元の経済人、太田小三郎氏が拓かれたところ。そこにお祀りされている倭姫宮はやはり経済人がお支えしていくものだとは考えていました。それは奉賛会の歴代会長も経済人が務めていることから継承されていると思います。今もご鎮座された十一月五日にちなみ、毎月五日の月次祭に参列しています。

——最後に、一〇〇周年をどのように迎えたいですか。

村田…伊勢市民をはじめ、全国の方々と一緒になって盛大にお祝いできる倭姫宮の一〇〇周年にしたいと考えております。

ご鎮座一〇〇周年奉祝行事のご案内

十一月四日(土)

●講演会とシンポジウム

皇學館大学名誉教授・櫻井治男さんによる基調講演「時空をつなぐ倭姫命と倭姫宮」ご鎮座百周年に寄せて」を聞き、シンポジウム「これまでの一〇〇年、これからの一〇〇年」では神宮司庁広報室次長・音羽悟さん、倭姫宮御杖代奉賛会会長・牧戸福司さんが加わり、倭姫命信仰やお宮創建などをテーマに質疑応答を交えて意見交換会を行う。コーディネーターは文筆家・千種清美さん。

十一月五日(日)

●倭姫宮秋の例大祭

皇學館大学櫻井名誉教授の元に市内旧家から「倭姫宮御鎮座祭行進歌」の歌詞と曲譜が印刷された譜面が届いた。作詞は鈴木暢幸氏。明治十一年生まれ、東京帝大文学部を卒業し、大正五年、神宮皇學館に任官。昭和二年に教授を退官するまで数々の著述を残し、「伊勢神宮」(大正十四年)を刊行。趣味は謡曲で能の宝生流にも通じていたという。当時の「伊勢新聞」に、ご鎮座奉祝に関して「市内の各学校女生徒らが、旗を持って外宮―内宮―倭姫宮まで行進歌を合唱して歩いた」と掲載された記事がある。

トピックス

「倭姫宮御鎮座祭行進歌」 譜面発見

●神宮徴古館前特設舞台 十一月十三時十五分

神恩太鼓(おかげ横丁)やオカリナ(大澤聡さん)、伊勢少年少女合唱団(二十五絃(中井智弥さん)、ヴァイオリン(白須今さん)の演奏・合唱で、倉田山に祝いの音色を響かせる。奉賛会恒例の紅白の祝い餅を贈呈。御神酒、ぜんざいの授与、野点もある(両日)。

●雅楽師・東儀秀樹さん

皇學館大学特別招聘教授でもある東儀秀樹さんと長男・典親

さんが共演。現代音楽を演奏する(十六時)。

●神宮徴古館前特設舞台 十一月十一時

奉讃曲「倭姫命」を作詞作曲の黒澤博幸さんが三味線を弾き、廣めぐみさんが歌い上げ、木遣りや邦楽(西尾会)、津軽三味線(黒澤さん)、伊勢音頭(神路会)、祭祀舞(千の会)、吟剣詩舞(大日本正義流正洲会)、民族音楽(まほろ)と各地から奉祝に駆けつける。

●シンセイサイザー奏者長岡成貴さんの演奏

伊勢市生まれ、明和町育ちの長岡成貴さんが、「倭姫(宮)伊勢の春秋」を披露。舞台では齋王の舞保存会ともコラボする(十一時十分)。

お問合せ 倭姫宮御杖代奉賛会事務局 TEL 0596-21-1555



譜面の表紙。中面には曲譜と歌詞。

伊勢文化舎・ツアーご案内

奈良ツアー

1) 元伊勢の阿紀神社を訪ねる 「秋の宇陀松山 石めぐり」 日 時▷令和5年10月21日(土) 雨天決行

2) 初瀬街道ウォーク 「札の辻から篠畑神社・三本松へ」

初瀬街道沿いの名所旧跡を訪ね、大和富士の額井岳山麓から元伊勢の篠畑神社を経て、三重県境まで歩くツアー。

日 時▷令和5年11月19日(日) 雨天決行 集合▷9時20分棟原駅、16時解散(予定) 参加費▷1000円(弁当・飲み物は持参、保険付き) 申込▷TEL 090-9054-4356(担当:真) FAX 0745-83-3151 主催▷紀伊半島交流会 伊勢街道分科会

伊勢ツアー

～古書を紐解き、現地を歩く～ 「近世の倭姫命信仰を探る」 尾上町、倭町の史跡をつないだコースを歩き、中世からの倭姫命の信仰に理解を深めよう。

日 時▷令和5年10月28日(土) 雨天決行 集合▷午前10時外宮表参道常夜灯、12時過ぎ倭姫宮で解散 コース▷小田橋、妙見さん(岡崎宮)、隠岡遺跡、尾部御陵、日蓮聖人誓願の井戸など 解説▷神宮司庁広報室次長 音羽悟さん 参加費▷保険代100円 募集▷30名(申込順) 申込▷伊勢文化舎 ハガキ、メール、FAXにて(8面)



お多福とともに 岩戸屋は 今も昔も内宮前

名物 岩戸餅



伊勢・内宮前おはらい町

岩戸屋

TEL 0596-23-3188 FAX 28-1322



豆腐庵山中 伊勢市宇治中之切町95番地 電話 0596-23-5558 木曜定休



倉田山を歩こう

倭姫宮周辺の文化の森を散策

神宮の内宮と外宮を結ぶ御幸道路の、ちよつど中間地点の倉田山に、倭姫宮が鎮まる。神苑会が整備した苑地には博物館や美術館が建ち、付近は神宮文庫、皇學館大学などの学校も多い文教地区。文化や芸術に浸って散策道を歩き、心満ちるひとときを。



四季を愛で、日本最古の博物館へ

桜や紅葉、コスモスと四季折々に楽しい倉田山。秋は深紅に染まるモミジが美しい。ここに神宮の神苑を整備した「神苑会」により神宮徴古館が建設され、一帯は「倭姫文化の森」として散策道も設けられている。大正天皇御手植

松や徴古館設立時の記念碑など各所に歴史も垣間見え、碑に刻まれた「崇敬至誠」の題字が人々の崇敬の念を伝えて

いる。
*神苑会は明治十九年(一八八六)、神苑の清らかさと景観を守り、文化施設の開設を目的に発足した財団法人。

神宮徴古館

神宮の歴史と文化を伝える総合博物館

明治四十二年(一九〇九)に開館した神宮の「総合博物館」。徴古館とは博物館という言葉ができる以前のネーミング。「古きものが明らかになる」意味で、より詳しく神宮のことが知れるよう、祭りや歴史・文化に関する資料、内宮殿舎の配置模型(1/20)が展示されている。国の重要



内宮殿舎配置模型



文化財も多い貴重な展示

館前に広がる西洋庭園はヴェルサイユ宮殿を模したといわれ、宮内省技師の市川之雄によるもの。その後

の改修により植栽は変化したが、優美な形は今も苑地のシンボルだ。
文化財十一、歴史・考古・美術工芸品など約一万三千点を収蔵展示している。ルネサンス様式の白亜の建物は、宮廷建築の第一人者・片山東熊の設計で、重厚で格調ある外観が特徴。館内には貴賓室が設けられ、大正天皇の休息にも使用されたという。館前に広がる西洋庭園はヴェルサイユ宮殿を模したといわれ、宮内省技師の市川之雄によるもの。その後



倭姫文化の森

神宮美術館

真心こもった 献納作品を展示

第六十一回神宮式年遷宮を記念して開館。遷宮に際して、文化勲章受章者や重要無形文化財保持者(人間国宝)といったその時代を代表する作家から、神宮に奉納された絵画や書、彫塑、工芸を収蔵し、テーマに沿って展示。当代美術の粋を一堂のもとに鑑賞できる全国でも類のない美術館で、作品を通して神々を敬う、心をうかがい知ることができ



神宮美術館

ゆったりとした展示

神宮農業館

日本最古の 産業博物館

人間と自然の産物のつながりを紹介する日本で最初にできた産業博物館。自給自足を守ってお供えする神饌をはじめ、皇室からの御下賜品、内国勸業博覧会などに出品された産業資料、サメの剥製や蠟細工の植物模型など、明治期の農林水産業に関する貴重な資料が展示されていて見応えがある。
明治二十四年(一八九一)に神苑会が外宮前に創設したものを、明治三十八年(一九〇五)、倉田山に移築。設計は徴古館と同じく片山東熊。外観は和風、内部は洋風にまとめられた優れた建築の技術も見学の見学がある。



珍しいものが並ぶ館内



神宮農業館

神宮徴古館・神宮農業館・神宮美術館
所 伊勢市神田久志本町 1754-1
時 9時～16時(観覧は16時30分まで)
休 木曜(祝日の場合はその翌日)、12/29～12/31、
燻蒸・展示替え等の臨時休館あり
入館料 神宮徴古館・農業館 大人500円、
神宮美術館 大人500円、3館共通券:大人700円
開 神宮徴古館 Tel.0596・22・1700

DATA

倭姫文化の森・美術館四季のこみち

緑を彩る花々や珍しい樹木も 倭姫文化の森を歩けば、秋にはコスモスやツワブキの花が見頃を迎え、キンモクセイも香り、葉が紅葉したり、赤く実が熟したりと、変化もにぎやかだ。また美術館横の庭園は、かつて農業館付属の植物園があり、



美術館四季のこみち

粗ナリト謂ヘドモ廉価ニシテ堅固

創業寛延三年(1750)、環境を守り、資源を生かし、新たな時代の構築へ
角仙合同株式会社 日用品雑貨 業務用総合卸問屋
〒516-0009 三重県伊勢市河崎1丁目8-29
TEL:0596-25-7100 FAX:0596-28-1110



ふるさとの漆器 伊勢春慶

http://www.ise-shunkei.com



◆本店 伊勢市本町13-7(外宮表参道)
電話 0596-23-3141
8:30～17:00 年中無休
2階 / あそらの茶屋
電話 0596-65-6111
朝かゆ 7:30～10:00
昼げ 11:30～14:30
◆内宮前店 伊勢市宇治中之切町87
電話 0596-28-0081
9:00～17:00 年中無休

本社 伊勢市上地町2691-13
☎0120-00-0707
8:30～17:30
土・日・祝日定休
Website https://www.sekiya.com



倭姫ゆかりの地めぐり

伊勢志摩エリア

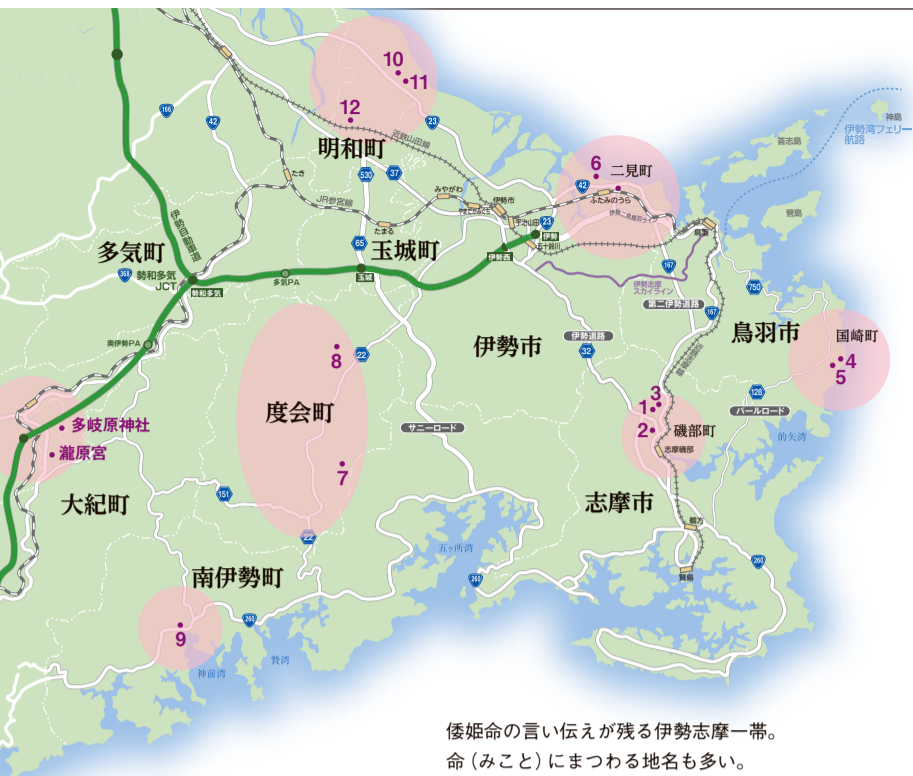
倭姫命がお供え物を奉納する御贄処に定めたゆかりの地と、地元で今も語り継がれる伝承の地を、伊勢志摩の海辺に里に、訪ねてみよう。

海の幸にも恵まれた米どころ——志摩の磯部

1 伊雑宮（志摩市磯部町上之郷）
御贄処を求めて倭姫が志摩の国を巡った折り、創建されたのが起源と伝えられる内宮の別宮。昔から近郷の人々の信仰を集め、「いぞうぐうさん」「磯部の大神宮さん」と親しみをこめて呼ばれ、漁師や海女の崇敬があつた。

2 佐美長神社（磯部町恵利原）
伊雑宮から西南に八百メートル離れた丘にある、伊雑宮の所管社。祭神は五穀豊穡の守護神である大歳神で、『倭姫命世記』の伝説を由緒としている。

……天照大御神が五十鈴の川上に鎮座された翌年の秋、真名鶴の鳴き声が響くので調べさせると、伊雑の葦原に一本の茎から千の穂に茂っている稲があつた。倭姫命は「鳥すら御田を作つて大神に捧げよう」としている」と感激し、その見事な稲を抜穂として供えるように命じ、真名鶴を大歳神と称えてお祀りした……。



倭姫命の言い伝えが残る伊勢志摩一帯。命(みこと)にまつわる地名も多い。



磯部の御神田。勇壮な竹取神事

地元では「穂落さん」と呼び、稲の豊作・病虫害駆除の祈願をこめる人が多いという。

命は御船に乗り、御饌御贄の調達場所を定め、まず志摩の国崎嶋へ……

3 倭姫命の旧跡地
伊雑宮の二百メートルほど北に案内板があり、大正末年に掘り出された大楠の残根と天井石が祀つてある。近くに池や秋葉堂もあり、小公園になっている。

4 鐘崎灯台・倭姫命巡行旧跡の碑・神宮御料鯨調製所（鳥羽市国崎町）
灯台下の荒磯は普段は禁漁区。森の入口にある神宮御料鯨調製所では、六月と十二月の月次祭、十月の神嘗祭の神饌に欠かせない「厨斗鯨」が、昔から伝わるしきたりどおり国崎の古老たちの奉仕

志摩の国の最東端・国崎は身の詰まった上質なアワビが獲れることで知られている。ここでアワビを召上がった倭姫命はおいしさに感動し、大神の御饌に献上しよう命じ、この地を御贄処に定めた。

5 海士潜女神社（国崎町）
倭姫にアワビを献上したといわれる伝説の海女「おべん」を潜女神として祀る。伊勢志摩すべての海士・海女の豊漁と安全の守り神。



佐美長神社。佐美長御前神社四社も祀る



伊雑宮の近くにある倭姫命の旧跡地



鐘崎灯台。船乗りが暗礁と潮流を恐れた岬



海士潜女神社。7月1日の大祭で御神楽を奉納



10月5日の御塩殿祭で焼き固めて堅塩にする

神の御塩は

二見の浜で

6 堅田神社（伊勢市二見町茶屋）
御塩殿神社（二見町庄）
御塩は米や鯨とともに神宮の大切なお供え物であるばかりでなく、お祭りの浄めにも欠かすことができない。

巡行の途中、二見の浜に御船を留めた倭姫に土地の神が堅塩を奉つたので堅田神社を定め、神前に供える塩をこの浜で作るよう命じたと伝わる。現在は五十鈴川沿いの御塩浜で海水を汲み上げ、濃縮して煮詰め、さらに神社の御塩殿で焼き固めて調製している。

私の旅行スタイル、ふるさと納税。

鳥羽市ふるさと納税

検索

鳥羽に旅行するなら「宿泊観光周遊券」が絶対お得！
寄附金額の3割分の宿泊観光周遊券をお贈りします。

鳥羽市観光協会



伊勢神宮と共に歩んできた「伊勢」の歴史や文化を学んで、伊勢をもっと好きになろう！

IBT方式 検定「お伊勢さん」



インターネットを経由して、時間と場所の制限なく24時間いつでも受験できます。

お問い合わせ
伊勢商工会議所 お伊勢さん検定係
☎ 0596-25-5153

詳細は公式HPで





橋たもとの緑の森に久具都比売神社が鎮座する



一之瀬川の上流部、度会大宮線沿いの「川上の清水」

大河の南の道を進むと美しい野にお着きになり、和比野と名付けました……

神宮と関わり深い

贅の海辺——南伊勢

9 倭姫命腰掛岩（南伊勢町河内）

倭姫は瀧原宮から険しい檜尾峠越えの難路で海岸に出た、と地元伝わり、命が疲れを癒そうと腰かけたといわれ、岩と石碑が国道二六〇号沿



倭姫命が疲れを癒そうと腰かけた岩が石碑裏にある。

一面の稲田に、もう一つの真名鶴伝説——明和

10 カケチカラ発祥記念碑（明和町根倉）

『世記』によれば、志摩の国で真名鶴による出来事があった翌年の秋、また鶴の

11 佐々牟江宮跡（明和町山大窪）

説明板の奥の田の中に、「竹佐々牟江宮跡」と刻んだ高さ

12 斎宮歴史博物館（明和町竹川）

天皇の代わり未婚の皇女が伊勢の大神に仕える斎王制度は、天武天皇の時代に確立し、南北朝時代に廃絶した。

この伝承をもとに、昭和二十四年「カケチカラ会」が



「伊勢神宮カケチカラ会」の由緒を記した記念碑

はるか昔に、都からおいでになった高貴な姫君「倭姫」。その名は、崇敬と親しみをこめて、今でも伊勢志摩の各地に伝え続けられている。

瀧原宮の創祀について

文／神宮司庁広報室次長 音羽 悟

鎌

倉時代に編集された『倭姫命世記』によると、第十一代垂仁天皇の皇女倭姫命が、御杖代として天照大御神を奉戴して、宮川下流の磯宮をお発ちになり、上流の方に御鎮座の地を求めてお進みになると、砂をも流す急流の瀬があり困っておられたので、真奈胡神がお出迎えをしてお渡し申し上げました。そこで命はそのところに

真奈胡神をまつる御瀬社をお定めになったのですが、これが今の皇大神宮伊勢多岐原神社です。

命はさらに真奈胡神の案内で進むと、「大河の瀧原之國」という美しい土地があったので、この地に宇太の大字欄奈に指示して荒草を刈り取らせて宮殿を造立されました。

神宮考証学の泰斗とされる御巫清直は「太神宮本記帰正鈔」において「宮トハ瀧原宮、同並宮ノ二宮ヲ謂フ」と述べています。これが瀧原宮と瀧原竝宮の起源といえましょう。延暦二十三年（八〇四）撰述の『皇太神宮儀式帳』に「天照大神遙宮」、延長五年（九二七）成立の『延喜大神宮式』に「大神遙宮」「伊勢と志摩との境の山中、大神宮西を去る九十里（原漢文儀式帳では九十二里）と記されています。

瀧原竝宮については、儀式帳と大神宮式には存在が記されていますが、『延喜神名式』には記載がないため、創祀に関し不明な点が多く種々の解釈がなされています。儀式帳における瀧原竝宮の存在は、書写の過程における追筆と唱える研究者もいます。延喜式の施行は康保四年（九六七）であり、編集着手から六十余年のこの間で修正加筆がなされていたと考えられます。奏進後に竝宮が瀧原宮から分立し、大神宮式には記載されたが、神名式の訂正はされなかつたという見方もあり、瀧原竝宮の創祀に関しては今なお不明な点が多いのですが、いずれにしろ平安中期には瀧原宮同様遷宮の制度が定まっていたと思われます。



瀧原宮（右）と瀧原竝宮。「大神の遙宮」として鎮まる



宮川の三瀬の渡し付近に船が浮かぶ



宮川そばの多岐原神社。御祭神は真奈胡神

瀧原宮及び瀧原竝宮とも皇大神宮御祭神を奉斎しています。これは皇大神宮に皇大神神を奉祀し、同別宮荒祭宮に皇大神神の荒御魂を奉斎する姿の古い形といわれています。江戸後期の内宮欄宜中川経雅は『大神宮儀式解』において竝宮について「瀧原宮は本宮の御霊を拜奉るなをまつる歟」と解説し、江戸末期の内宮欄宜蘭田守良は『神宮典略』において「荒祭宮の遙宮の意と云ざる事にもあらんか」と説明した上で、経雅の説に肯定しつつ慎重な姿勢を示しています。そして神宮皇學館教授・阪本廣太郎氏も『神宮祭祀概説』で皇大神神の荒御魂であろうと考証しています。

（おとわさる）…神宮司庁広報室次長。滋賀県生まれ、平成四年に皇學館大学大学院博士前期課程国史学専攻修了。神宮研修所講師、皇學館大学神職養成室明階総合課程検定講師も務める。著書に神道文化叢書第39輯「悠久の森——神宮の祭祀と歴史」ほか。

国土交通省認定のドローン操縦資格を最短3日間で取得可能!!

イオンモール四日市北にドローンスクール誕生!



お問い合わせは お電話 か ホームページ から

059-335-4114

https://www.ds-yokkaichi.jp



そのビジネスをもっと効率的に kintone Solution

撮影〜編集までワンストップ ゴートップスタジオ

操縦スキルと知識の習得をサポート ドローンスクール四日市

実写・アニメーション 動画・映像制作

環境にやさしいエコ加工技術 ゴーチャック

印刷という枠を超え 社会に向けた新たな価値を創造する企業へ

office 東京・三重・大阪・福岡・淡路島



伊勢鳥羽みちくさきっぷ

伊勢鳥羽方面へお出かけの際は、観光施設割引がついた乗り降り自由なバスフリーきっぷで!

伊勢鳥羽みちくさきっぷ(フリーきっぷ)運賃

■1日(1DAY) … 大人 1,200円 小児 600円

■2日(2DAYS) … 大人 1,800円 小児 900円

フリー乗降区間や発売場所はHPをご覧ください!



〒514-8635 津市中央1番1号 TEL.059-229-5511 URL. https://www.sanco.co.jp/

伊勢志摩のまつり暦

10月

1日(日) 御酒殿祭

神嘗祭にお供えする御料酒がうるわしく醸造できるようお祈りし、全国の酒造業の発展を祈願する祭り。

伊勢市、伊勢神宮内宮
神宮司庁 Tel.0596・24・1111

5日(木) 御塩殿祭

神嘗祭をはじめ、すべての祭典にお供えする堅塩を焼き固める祭り。あわせて、全国の塩業の発展を祈願する。

伊勢市、御塩殿
神宮司庁 Tel.0596・24・1111

7日(土) 奉祝神嘗祭 神宮奉納行列

神宮の神嘗祭に合わせ、神恩感謝の気持ちをもって、日本全国から取り寄せた産物を神宮に奉納し、神様に秋の収穫を感謝する。

伊勢市、御塩殿
おかげ横丁総合案内
Tel.0596・23・8838

7日(土) 第24回伊勢の伝統の能楽まつり

伊勢の伝統芸能、仕舞、狂言、連吟、独吟などが披露される。

伊勢市、伊勢市生涯学習センター
いせトピア
伊勢の伝統の能楽を継承する会
会長 河原さん
Tel.0596・36・4190

7日(土)・8日(日) 伊勢まつり

マーチング、神輿、太鼓などのパレードイベント広場での演奏やダンスなどが行われる。8日には東京ディズニーリゾート®40周年スペシャルパレードを実施。



7日 8日 9時40分〜17時 (開始・終了の時間はプログラム調整により変更の可能性あり)
伊勢市、高柳商店街周辺〜県道鳥羽松阪線、伊勢市駅前周辺
伊勢まつり実行委員会事務局 (伊勢市市民交流課内)
Tel.0596・21・5549

14日(土) 神御衣祭

神服織殿神社・神統機殿神社で奉織された和紗(絹・荒紗)の二種類の神御衣が縫い糸や針を添えて供えられる。

伊勢市、伊勢神宮内宮・荒祭宮
伊勢市、伊勢神宮内宮
神宮司庁 Tel.0596・24・1111



14日(土) 浜島神祭

浜島の宇気比神社の例大祭。五穀豊穰、大量満足、山幸海幸に感謝し、実りの秋を寿ぎ、子ども神輿や御船曳きが行われる。

伊勢市、浜島町、宇気比神社
宇気比神社
Tel.0599・53・0088

15日(日)〜25日(水) 神嘗祭

伊勢神宮の一年で最大の祭り。その年の新穀をお供えし、神様の常若を祈り、豊穣に感謝する祭り。

伊勢市、伊勢神宮外宮、内宮ほか
神宮司庁 Tel.0596・24・1111

15日(日) 初穂曳(陸曳)

奉曳車にお初穂を載せ市内を奉曳し、外宮に奉納する行事。

伊勢市、高柳商店街(本社付近)〜県道22号、伊勢神宮外宮
伊勢神宮奉仕会事務局
Tel.0596・25・5154



16日(月) 初穂曳(川曳)

初穂舟にお初穂を載せ五十鈴川を遡り、内宮に奉納する行事。

伊勢市、五十鈴川浦田橋付近〜伊勢神宮内宮
伊勢神宮奉仕会事務局
Tel.0596・25・5154

21日(土)・22日(日) 第21回神恩感謝日本太鼓祭

全国各地の太鼓衆が伊勢に集い、日々感謝の思いを太鼓に込め伊勢神宮に奉納する。

伊勢市、伊勢神宮外宮、内宮ほか
おかげ横丁総合案内
Tel.0596・23・8838



28日(土)〜11月5日(日) 令和5年倭姫宮祭奉祝企画展 凧の集い

倭姫宮の例大祭とご鎮座100周年を記念した企画展。9人の女性伝統工芸職人のグループ「凧九」の展示で、ワークショップ(有料)や販売もある。和紙人形作家・阿部夫妻さんの作品も展示。

伊勢市、伊勢神宮内宮
おかげ横丁 大黒ホール
おかげ横丁 企画部
Tel.0596・23・8827



11月

4日(土)・5日(日) 猿田彦神社 秋季例祭

みちひらきの神様・猿田彦大神を祀る神社の秋季例祭。

伊勢市、猿田彦神社
猿田彦神社
Tel.0596・22・2554

4日(土)・5日(日) 秋の伊勢楽市

春と秋年2回開催される市。伊勢志摩の地場産品などが並び、地元の人や観光客で賑わう。

伊勢市、伊勢神宮外宮、内宮ほか
伊勢楽市実行委員会
Tel.0596・28・3705

11日(土) (予備日12日(日)) 港まつり

海上安全、大漁満足、地区住民の幸福を祈願する祭り。カッオ神輿、御船神輿、鯛神輿や女性だけで担ぐカジキマグロ神輿が町内を練り歩く。

伊勢市、伊勢神宮外宮、内宮ほか
浦消防団詰所前広場
田曾浦区事務所
Tel.0599・699・3175

16日(木)・19日(日) 頭之宮四方神社例大祭

16日に当日祭。19日の奉祝祭は、楽師による雅楽の奉納や頭之福餅の餅まきがある。

伊勢市、頭之宮四方神社
大紀町大内山、頭之宮四方神社
頭之宮四方神社
Tel.0598・72・2316

23日(木)・祝(29日(水)) 新嘗祭

天皇陛下が宮中で新穀を神々に奉られるに際して行われる祭り。

伊勢市、伊勢神宮外宮、内宮ほか
神宮司庁 Tel.0596・24・1111

23日(木)祝 新嘗祭(二船祭)

海士潜女神社で海の恵みの豊漁を祈願する神事。蒙古襲来の故事にちなみ、ミスノキで小舟(15cm)とオオフネ(45cm)を作って供える。

伊勢市、海士潜女神社
園島町内会
Tel.0599・33・7428

23日(木)祝 猿田彦神社みちひらき大神輿

新嘗祭の日に新穀に感謝し、おはらい町を猿田彦神社のご本殿と同じ「さだひこ造り」の大神輿を担ぎ練り歩く。

伊勢市、猿田彦神社、おはらい町、内宮宇治橋前
猿田彦神社
Tel.0596・22・2554



12月

1日(金) 御酒殿祭

12月の月次祭の御料酒が、うるわしく醸造されるようお祈りをする。

伊勢市、伊勢神宮内宮
神宮司庁 Tel.0596・24・1111

10日(日) 夫婦岩大注連縄張神事

夫婦岩に大注連縄を新たに張り渡す神事。木道り唄が流れる中、お祝いを受けた5本の注連縄が氏子らによつて夫婦岩に張り渡される。

伊勢市、二見興玉神社
二見興玉神社
Tel.0596・43・2020

15日(金)・25日(月) 月次祭

暦を二分する6月と12月に、皇室の弥栄と国民の平安を祈つて行われる大祭。三節祭の一つ。

伊勢市、伊勢神宮外宮、内宮ほか
神宮司庁 Tel.0596・24・1111

31日(日) 大祓

大宮司以下の神職、楽師を祓い清める。

ご案内

令和6年版 「伊勢講暦」(カレンダー) 11月上旬発売 テーマ「お伊勢さんの水」



内宮神域を流れる五十鈴川をはじめ、伊勢志摩の御水・名水どころを、美しい6枚の写真と詩歌で紹介しています。

撮影/阪本 博文 発行/伊勢文化舎
定価/1部660円(税込) 送付の場合1700円
販売/三重県内の主な書店、Amazon。
詳しくはHPで
お問合せ/ TEL 0596・23・5166
FAX 0596・23・5241
http://www.isebito.com

「伊勢神宮のはじまりと「倭姫命」」東京講座

東京の方に伊勢神宮と倭姫命のつながり、命の人物像などについて知っていただくことと東京大神宮と共催して「倭姫命」講座を開催します。

とき/令和5年12月1日(金)
18時30分〜20時30分(ご様子まで)
*18時〜神宮司庁制作「倭姫命の旅」の映像上映
会場/東京大神宮 マツヤサロン4階
「五十鈴の間」(東京都千代田区飯田橋駅徒歩5分)

講師/ 皇學館大学名誉教授 櫻井治男氏
神宮司庁広報室次長 音羽 悟氏
文筆家 千種清美氏
定員/100名(申込順) *入場無料
共催/東京大神宮(有)伊勢文化舎
後援/神宮司庁
協力/ NPO法人ちんじゅの森
お申込み/ (電話での申込みはできません)
ハガキ、メール orai@isebito.com
Tel.0596・23・5241
お問合せ/ TEL 0596・23・5166
〒516-0008 伊勢市船江2丁目
22-125 伊勢文化舎内 東京講座係

配布・購読のご案内
本紙の配布先▷【三重県内】神宮(内宮・外宮・別宮)、伊勢志摩エリア各市町の観光協会、観光施設、土産飲食店等、近鉄の主要駅【三重県外】近鉄の主要駅、東京大神宮(飯田橋)、三重テラス(日本橋)、全国の神社庁ほか
購読の場合▷5部まで300円(送料込)住所、名前、電話番号、メールアドレス、部数を記入し、伊勢文化舎までお送りください(切手可)。
〒516-0008 伊勢市船江2-22-25
伊勢文化舎内「お伊勢さんニュース」係
TEL 0596・23・5166

編集長雑感

倭姫宮創建百周年を機に、この一年の旅は元伊勢めぐりだった。極力歩き、のどかな田園風景や旧街道のひなびた風情を楽しんだ。それぞれの宮社は立派で管理が行き届き、現在に至っても倭姫命への篤い崇敬が寄せられていることがわかる。神の御心を伝える純粋さを持ち、神宮の祭りや制度を定めたクレバーな姫。11月の奉祝行事で、そのことを再認識したい。(元美)

次号は 令和6年6月頃発行予定

スタッフ
■発行人 中村賢一
編集長 中村元美
編集 福所淳子 出口伊都穂
制作 高木恵奈(アイブレーション) 印刷 ゴートップ

近鉄 しまかぜ 10th Anniversary 大阪・京都・名古屋⇄伊勢志摩



特急券の予約・ご購入
特急券発売箇所
特急券発売駅の窓口、主要旅行会社、インターネット予約、発売サービス(チケットレスサービスのみ)
※車両設備などの事情により予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

運行日
大阪発着:原則水曜日を除く毎日運行
京都発着:原則水曜日を除く毎日運行
名古屋発着:原則木曜日を除く毎日運行
※車両設備などの事情により予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

